

大規模レセプト・健診データベースを用いた
免疫抑制剤長期投与時の併用薬による消化性潰瘍発症率及び有害事象の比較

ステロイドを始めとした免疫抑制剤は抗炎症・免疫抑制治療に広く用いられている一方、さまざまな副作用も報告されている。1980年代までは、糖質ステロイド長期投与により消化性潰瘍発症リスクが上昇すると考えられていたが、その後糖質ステロイド長期投与は消化性潰瘍発生のリスク因子とはならないことが過去のメタアナリシスに対する批評として報告されている^[1]。しかし、ステロイド長期投与時にはNSAIDsやビスホスホネートを併用することも多く、その場合には消化性潰瘍発生のリスクが上昇することが知られている。これらのリスクを軽減するためにプロトンポンプ阻害薬(proton pump inhibitor : PPI)を始めとした消化性潰瘍治療薬が投与されることも多い。しかしステロイド投与に関して、PPIの予防投与と消化性潰瘍発生リスク減少の関連を示した報告は少ない^[2]。

一方、近年PPIの長期投与による有害事象が懸念されており、腸管感染症、市中肺炎、骨折、虚血性心疾患などとの関連が報告されている。

そこで、本研究の目的は、大規模レセプト・健診データベースを用いて、免疫抑制剤長期服用者の背景情報を確認すること、併用薬としてのPPIとその他消化性潰瘍治療薬、あるいは消化性潰瘍治療薬を併用しない場合との消化性潰瘍発症率に関する比較を行うこと、およびPPIの長期投与との関連が報告されている有害事象の発症率について比較を行うことである。本抄読会では、背景情報および発症率に関する現段階での解析結果と考察を述べる。

参考文献

1. Conn HO, Poynard T. Adrenocorticosteroid administration and peptic ulcer: a critical analysis. *J Chronic Dis* 1985; 38:457-468.
2. Koyyada A. Long-term use of proton pump inhibitors as a risk factor for various adverse manifestations. *Therapie*. 2021 Jan-Feb;76(1):13-21.
3. Dutta AK, Jain A, Jearth V, Mahajan R, Panigrahi MK, Sharma V, Goenka MK, *et al*. Guidelines on optimizing the use of proton pump inhibitors: PPI stewardship. *Indian J Gastroenterol*. 2023 Oct;42(5):601-628.